

1 学校教育目標
志高く、豊かな感性を培い、闊達な行動力を身に付けた生徒の育成 ～地元を愛し、地元を理解し、地元を支える人材の育成～ ○学力 : 「学び直しから大学入試まで」に対応 ○学校生活 : 「安心・安全な学校生活」の実現 ○指導 : 普通総合学科の特色を活かした丁寧な指導 ※ 指導指針 : 「牛高esse」をベースとした指導計画と実践・評価

2 本年度の重点目標
(1) 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進 (2) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 (3) 地元の期待に応える教育活動の展開

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	スクールミッションに基づく学校作り	・スクールミッションの理解と実践	・学校評価アンケート結果が前年度を上回る。また、第2回の結果が第1回を上回る ・学校運営協議会委員の年間総括から、今年度の取組の成果について意見を多数得る ・地域社会との関係を深める活動の実施	・学校評価アンケートを年2回実施する ・学校運営協議会を年3回実施する ・中高連携の強化	B	・学校評価アンケートを7月と12月の2回実施した。課題を浮き彫りにし、共通理解のもと見直しを進めた ・学校運営協議会にて、地域連携や中高連携を進め、地域に根ざした学校の位置付けが定着した ・天草市役所まちづくり支援課、本渡街づくり協議会、一般社団法人未来の大人プロジェクトと連携したSBP事業の実施に向け取り組んだ
	牛高 esse をベースとした生徒育成	・育てたい生徒像を確立していくための授業や行事のPDCAサイクルの確立	・牛高esseの項目と授業や行事内容一致の徹底 ・職員全員が授業や行事を振り返り、牛高esseに基づいているか見直しを行いながらブラッシュアップしていく	・授業・行事毎のPDCAの検証	A	・各種行事に牛高esseの目標を明記し活動を行うことができた ・スクールミッションに牛高esseを連動させ、本校の進むべき方向性をより明確化した
	業務改善・働き方改革の推進	・職員のセルフマネジメント力の構築 ・業務の精選 ・ワークシェアによる負担の軽減	・時間外勤務の縮減(対昨年度比) ・年休取得回数一人15日以上 ・業務の見直しや会議の進め方の効率化 ・校務のICT化 ・部活動指導のローテーションの推進	・月2回のカエルデーの設定と遵守 ・個人打刻データの月別推移の配付と意識付け ・ゆうネットやクラウド活用による会議回数の縮減 ・クラウド活用による資料共有やペーパーレス化 ・衛生推進委員会を毎月実施し、職員へ報告する	B	・月に2回カエルデーを設定したが、定時退勤の徹底には至らなかった ・個人打刻データの推移を配付し、振り返りを行った ・職員WEBサイトを開設し、資料の共有等のペーパーレス化を進めた ・月に一度、衛生推進委員会を開催し、打刻データ、年休取得状況、健康状況について議論し、職員へ報告した

	<p>スクールコンプライアンスの徹底と危機管理能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を発生させない職場環境作り</li> <li>・問題発生時の素早い対応の実践</li> <li>・職員間のコミュニケーション機会の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の不祥事ゼロ</li> <li>・職員間や管理職と職員間の報告、連絡相談の徹底とこまめな対応の実践</li> <li>・学校評価アンケートの関連事項の評価が前年度を上回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職との面談回数増加による職員とのコミュニケーション量の増加</li> <li>・朝会時の不祥事防止等の呼びかけ</li> <li>・不祥事防止関係の職員研修の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風通しよく相談しやすい環境づくりの実現を心がけた。その結果、職員が不祥事を起こすことがなかった</li> <li>・朝会要項に不祥事関連の新聞記事を掲載し、自分事として考えてもらうよう促した</li> </ul>
学力向上	<p>宅習習慣の確立</p>	<p>宅習習慣の確立に向けた取組による生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅習時間調査データの蓄積と活用</li> <li>・学校評価アンケート（生徒）の関連項目の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、年次、教科担当に調査データの提供を行う</li> <li>・生徒の学習意識を高めるため、分析を通じた啓発を行う</li> <li>・結果と分析を保護者に周知する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末考査にあわせて宅習時間調査を実施し、結果と分析を職員、生徒に周知したが、保護者への周知には至らなかった</li> <li>・学校評価アンケート（生徒）の結果が前年度よりやや向上した</li> </ul>
	<p>教科指導力の向上</p>	<p>分かる授業の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートと授業評価アンケートの結果で、前年度を上回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の公開・研究授業週間の設定</li> <li>・年2回の授業評価アンケートによる授業改善</li> <li>・他教科と連携した教科横断的な授業実践</li> <li>・ICTを活用した授業実践</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の公開・研究授業週間を設定し、ICTを活用した授業実践をテーマに取り組んだ</li> <li>・年間を通して第一高校から配信される地理Aの授業を実施した</li> <li>・年2回の授業評価アンケートを実施し、授業改善の機会を設けた。授業評価アンケートでは、1回目と比較して全体平均が0.4%向上した</li> </ul>
	<p>新学習指導要領に対応する評価方法の確立</p>	<p>3観点評価による評価の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3観点の評価基準を作成し、それによる評価を実施している</li> <li>・評価基準の見直しを行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会を中心とする授業改善の取組の実践</li> <li>・各学期における評価期間の設定</li> <li>・新学習指導要領に沿った成績処理の確立</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに各科目の評価基準を作成し、生徒に周知した</li> <li>・教育課程検討委員会を中心に、多様な進路に対応したカリキュラムの作成に取り組んだ</li> <li>・新学習指導要領に沿った成績処理を確立するため意見を集約し修正・改善を図った</li> </ul>
キャリア教育（進路指導）	<p>進路指導の体制の整備</p>	<p>生徒の目標を叶えるサポート体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望の100%達成</li> <li>・進路指導活動の計画的実施と充実化（目標値：学校評価アンケート関連項目が前年度を上回る）</li> <li>・進路情報の適切な提供（目標値：学校評価アンケート関連項目が前年度を上回る）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス等の計画的かつ組織的な実施</li> <li>・模擬試験結果データの分析</li> <li>・求人票一覧表の組織的な作成</li> <li>・進路だよりの適時発行</li> <li>・小論文や面接指導、個別添削など、全職員による指導</li> <li>・夏期課外・土曜講座（ステップアップ講座）の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験、公務員模試等を計画的に実施し、その結果を職員で共有することができた</li> <li>・生徒が活用しやすい求人票一覧の作成と整理を行うことができた</li> <li>・第2回学校評価アンケート「進路指導活動の計画的実施と充実化」の項目では、肯定的な回答が前年度を（保護者）-6.1%、（生徒）+5.5%であった。「進路情報の提供」の項目では、肯定的な回答が前年度から（保護者）+0.5%・（生徒）+1.9%上昇した</li> </ul>

	将来設計能力の育成	自己理解の深化及び適切な勤労観 ・職業観の育成	・働くことの意味についての理解 (目標値：学校評価アンケート関連項目が前年度を上回る) ・表現する、伝える力の育成 (目標値：学校評価アンケート関連項目が前年度を上回る)	・LHRや産業社会と人間、総合的な探究の時間における進路についての活動の充実化(適職検査・進路講演会・インターシップ・年次別進路講演会・小論文模試の実施) ・個人面談および三者面談の実施 ・ポートフォリオ、キャリアパスポートの活用	B	・今年度初めて4月に適職検査を実施した。進路ガイダンスを年次単位で企画し、自身の適性を知った上で参加することができた ・3年ぶりにインターシップ(1年次)と職業別ガイダンス(1・2年次)を実施することができた。また、くまもとお仕事探検フェア(2年次)に参加することができた ・第2回学校評価アンケート「卒業後の将来」の項目では、肯定的な回答は前年度比較(保護者)-3.3%、(生徒)+4.3%であった ・「産業社会と人間・総合的な探究の時間」の項目では、肯定的回答が前年度比(保護者)-2.9%・(生徒)+3.7%であった
	環境教育の推進	リデュース(減量)とリサイクル(再生使用)の徹底	紙の完全リサイクルとビン・カン・ペットボトルの校内での廃棄ゼロ	環境教育推進委員会、生徒会生活委員会を中心としたPDCAサイクルの実施	A	・生活委員会を中心に、各クラスで分別の呼びかけを適宜行うことができた ・第2回学校評価アンケート「環境美化や分別」の項目では、肯定的な回答が(保護者)94.8%、(生徒)96.0%、(職員)100%であった
生徒指導	牛深高校生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒の育成	・基本的な生活習慣の実践 ・互いの成長を期する姿勢 ・地域との交流	・各種ルールやマナーの理解と実践 ・学校行事の充実・地域、保護者との連携	・全職員による各種指導(登校・施錠・整容等) ・集団行動を伴う各種集会等の活用 ・年次・HR掲示板の活用 ・校内外活動における地域との連携	B	・今年度は遅刻者を対象とした遅刻改善指導を行った。遅刻を繰り返す生徒への対応を今後も検討していきたい ・校則の見直しに伴い、整容面の検査において新しい基準作りを行った
	交通安全・防犯意識の定着	・正しい交通ルールやマナーの理解と実践 ・施錠の有無(私物の管理)	・交通事故未然防止 ・交通違反0 ・二輪車施錠率の向上 ・個人ロッカー使用状況の改善	・登下校指導 ・定期点検 ・巡回指導 ・啓発・広報活動(掲示板の活用等) ・交通LHR ・交通安全教室への参加	A	・交通事故防止を目的としたLHRを適切な時期に実施することができた ・私用バイクについて、警察と連携した安全点検及び指導を行った
	情報安全・情報モラル教育の推進	情報安全・情報モラル教育に関する指導の工夫	・携帯端末機器等の使用法や危険性の理解 ・フィルタリング率の改善 ・個人情報保護意識の定着(書き込みによる人権侵害やSNSトラブル件数減)	・情報モラル教育に関する講演会を実施(年1回) ・情報モラルに関するリーフレットの配付 ・全校集会等を活用したSNSに関する注意喚起	A	・SNSをはじめとするインターネットの適切な使い方を学び、情報モラルを身につけさせるため、講師を招聘して講演会を実施した。講演会では、トラブルの具体的な事例を通じて、SNSへの問題となる書き込み等を「発信した理由」の考察や「未然の防止策」の助言等もあり、生徒にとって多くの学びがあった

	健康相談 ・教育相談	生徒支援体制の確立と強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC、SSW等外部専門家との連携及び活用の充実</li> <li>・学校評価アンケート関連項目90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員向けにSC、SSWの職務内容について周知</li> <li>・SC来校日を保健室前掲示板や保健便りで周知</li> <li>・SSWとの連絡体制を強化</li> <li>・ストレス軽減プログラムでのSC活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの職員会議でSCとSSWの職務内容についてプリントを配付し説明、周知を図った</li> <li>・SC来校日を保健室前や行事予定表にて周知した。活用した生徒は、継続した利用が多かった</li> <li>・SSWに8件のケースに関わってもらい、生徒の登校状況の改善や学校生活の安定、医療機関との連携、円滑な進路変更につながった</li> <li>・ストレス軽減プログラムの実施にあたり、SCから助言を頂き取り入れた</li> <li>・第2回学校評価アンケートで、悩みや困りごとへの対応の項目での肯定的な回答は、生徒は90%以上であったが、保護者については85%程度にとどまった</li> </ul>
人権教育の推進	人権を守ろうとする意識・意欲・態度の育成	人権 LHR の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会で人権LHRの内容を検討、精選して授業を行う</li> <li>・外部講師を招いて全校生徒への講演会を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の現状に即した人権LHRの内容の精選</li> <li>・外部講師を招いた講演会の実施</li> <li>・新たな人権問題に関するリーフレット等の配付</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の育てたい生徒像に即して、主に「自他の尊重」という人権意識につながる内容の人権LHRを実施し、人権感覚の涵養を図ることができた</li> <li>・生徒にとって身近な人権課題でもある「インターネットによる人権侵害」をテーマに、外部講師を招いて講演会を実施することができた</li> </ul>
	自他の“いのち”を大切に作る心の育成	いじめのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート関連項目が前年度を上回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次会を中心とする各種委員会と連携し、生徒の小さな変化を見逃さないための情報共有の実施</li> <li>・日頃からの生徒への声かけや、小さな変化を見逃さない観察と情報共有、報告・連絡</li> <li>・相談の徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回学校評価アンケートにおいて「私は、人権の大切さを学び、日常生活に活かしている」の項目における生徒の肯定的な評価は、前年度の結果である100%に到達することができなかった</li> <li>・日頃の観察や声かけなど職員のきめ細かな対応により、生徒が安心して生活できる学校環境が築かれている</li> </ul>
いじめの防止等	いじめの未然防止	自他の存在を等しく認め、互いの人格を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共感的理解を可能にする情操とコミュニケーション能力を育てる</li> <li>・自己有用感や充実感を得る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に関する情報の収集及び共有</li> <li>・日頃の見守り活動</li> <li>・生徒中心の実践活動</li> <li>・保護者との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被害生徒が心身の苦痛を感じた時点でいじめとなる」という、いじめの概念について全校集会を通して周知を行った</li> </ul>

	いじめの 早期発見	生徒達と的確に関わり、いじめを隠したり軽視したりすることのない、積極的ないじめの認知	・教職員の「気づき」力の向上 ・情報集約担当者の周知	・アンケートの実施（年3回） ・相談窓口の周知と相談しやすい環境づくり ・定期的な個別面談や教育相談会議の実施と職員間での情報共有及び連携	B	・学期毎に心のアンケートを実施し、早期にいじめを発見し対応することができた ・各クラスや部活動の中で起こる小さな人間関係のトラブルであっても放置せず、教員間で情報を共有できる体制作りを行った
	いじめへの 対処	いじめ把握後の適切な対処	・教職員の対処スキルの向上	・職員研修（教育相談、いじめ対処）の実施 ・いじめ防止基本方針及び重大事態への対応マニュアルの周知 ・組織的な対処（いじめ防止対策委員会）	A	・いじめ情報集約担当者の役割についての研修を行った ・いじめの聞き取りマニュアルを作成し、職員研修を行った
地域連携 （コミュニティ・スクールなど）	学校安全の取組の推進	危機管理能力の育成	・避難訓練、救急救命法研修の計画的実施 ・危機管理マニュアル、総合防災マップ等の周知徹底及び防災意識の向上	・リーフレットの配付 ・教科との連携 ・職員研修の実施 ・防災教育及び研究授業の実施 ・マイタイムラインの作成	B	・年度初めに防災マップの作成及び配付ができた ・防災教育の中で、全校生徒がマイタイムラインの作成を行った ・危機管理マニュアルの見直しを行い、職員必携とともにファイリングするようにした ・消防署と連携し、地震、津波を想定した避難訓練を実施した
	ボランティア活動の推進	地域貢献度と地域理解	・学校評価アンケートの関連項目が8割以上 ・主体的参加者の増加	・多方面からの要望や情報の収集 ・周知活動の強化 ・市役所や社会福祉協議会、その他、さまざまな機関との連携	A	・市役所やボランティア依頼者と連携、協力することで、地域活性化と地域理解につながった ・地域清掃を毎月実施することで、地域の環境美化に貢献した
	中学校との関係作りの強化	中学生の牛深高校への関心の高さ	・中学生への学校通信の定期的配付 ・中学生向けのアンケート実施による牛深高校の魅力創造	・地元中学校への広報活動の実施 ・中学生向けのアンケート実施	A	・近隣3中学校の全校生徒を対象とし、本校学校新聞である「牛高 Style」を毎月配付した ・7月の体験入学に加えて、11月に秋のオープンスクールを開催し、近隣中学校の2年生を本校に招き、学校説明や体験授業を行った
情報センター機能の充実	図書館教育	・読書習慣の定着 ・図書館利活用による情報活用能力と課題解決能力の育成	・学校評価アンケート関係項目（朝読書を通じて読書の習慣化）75%以上 ・図書館利用授業時数：50時間以上	・図書館内外の掲示や広報により図書館の情報を発信 ・朝読書の巡回 ・学校外図書館との連携による資料提供	B	・学校評価アンケートでは、71.0%が読書の習慣化ができたと回答した ・96.8%が図書館利活用による情報収集ができると回答があった ・図書館利用は27時間であり、目標を達成することができなかった

ICT活用の推進 (情報センターとしての役割)	・情報活用能力の育成 ・教科指導におけるICT活用の推進 ・校務の情報化の推進	・1人1台端末の環境整備、活用促進 ・校内のICT環境整備 ・教職員の活用頻度やスキルの向上 ・情報化認定「優良校」の取得 ・グループウェア、校内サーバ、文書セキュア等の効率的活用	・学習者用端末の適正な管理・利用のためのルール作成、紛失や故障時の対応の周知徹底 ・家庭との共通理解 ・ICT支援員との連携 ・情報機器等の活用法の情報提供、発信 ・校内研修の実施 ・学校ホームページの積極的更新 ・ネットワーク委員会を活性化させ、校内の環境整備を促進する	A	・端末活用マニュアル、利用時のルールを配付し、生徒に共通理解を図った ・保護者アカウントの配付、情報発信を行った ・ICT支援員による端末活用研修を2回実施した ・オンラインによる始業式、終業式、全校朝礼等を実施した ・ICT活用情報を随時職員に発信し、積極的活用を促進した ・情報化認定「優良校」を取得した
----------------------------	---	--	--	---	---

**4 学校関係者評価**

いずれの項目も概ね高評価であり、今年度の取組が充実したものであったことが窺える。新型コロナウイルス感染症の影響で、活動に制限等があったと思うが、ウィズコロナで職員と生徒、保護者が一体となり取り組まれた成果であると思う。

学校教育目標から、本年度の重点目標を定め、評価項目が適切に配置されている。すべての項目でAまたはBの評価であり、学校運営の成果が窺える。

健康・教育相談では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部専門家を活用され、生徒からの相談について十分な対策がとられている。このまま継続をお願いしたい。

いじめについては、アンケート実施による早期発見への取組や、いじめ防止対策委員会による組織的な対応がなされており、適切な取組ができている。

一人一台端末の活用や行事等のオンライン配信に取り組み、更には情報化認定優良校を取得されており、ICT活用による授業改善や校務改善の推進に取り組まれている。

**5 総合評価**

年に2回実施した学校評価アンケートでは、生徒、保護者共に比較的高い評価をいただいている。「牛高esse」を柱とした教育活動を全職員の共通理解のもと進めてきた結果が表れている。

本年度の重点目標については、自己評価総括表を踏まえ、以下のとおりの評価とした。

(1) 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進  
大項目「生徒指導」「人権教育の推進」「いじめ防止等」の評価を総合的に見ると、すべての教育活動を通して、日頃から生徒との正しい関わり方が実践されており、生徒の人権尊重の精神の涵養につながったと言える。学校評価アンケートにおいて「私は、人権の大切さを学び、日常生活に活かしている。」の項目における生徒の肯定的な評価は、96.8%であり、学期毎に人権教育LHRや人権教育講演会等を計画的に実施したことで人権感覚の涵養を図ることができた。

(2) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実  
大項目「学力向上」「キャリア教育(進路指導)」の評価を総合的に見ると、教務部、進路指導部を中心とした様々な取組が成果をあげている。学校評価アンケートの「私は家庭学習に意欲的に取り組み習慣化している。」という項目においては4割の生徒が低い数値であり、今後は、スタディーサプリの有効活用等で改善を図っていきたい。

(3) 地域の期待に応える教育活動の展開  
大項目「地域連携」「情報センター機能の充実」小項目「ボランティア活動」の評価から見ると、地域と連携した各種取組を実施することにより、地域理解や地域貢献を進めることができた。総合的な探究の時間を軸とした学力向上研究指定校事業の取組の中で、今後は更に地域と連携した活動を推進し、地元を愛し、地元を理解し、地元を支える人材の育成を目指していきたい。

**6 次年度への課題・改善方策**

本年度は、地域・生徒・保護者から比較的高い評価を得ることができたが、課題は多く残っている。次年度は、以下の点を課題として注力していきたい。

① 生徒募集  
本校の魅力である「幅広い進路選択ができる普通総合学科」「地域と共にある学校」「探究的な学びの充実」を、地域や近隣小中学校に継続的に伝えていくことが必要である。本年度は、新たに中学2年生向けの「秋のオープンスクール」を実施したが、次年度は、中学1

年生向けの出前授業などを企画し、更に取り組を拡大させながら本校をPRしていきたい。

②学力向上

学校評価アンケートから、家庭学習の習慣化や学校からの便り等が保護者へ渡らないといったことが課題として浮き彫りになった。一人一台端末やスタディーサプリが導入されているため、ICT機器やアプリケーションを有効に活用しながら家庭学習の定着を図りたい。また、保護者への情報提供は、Google Classroomを活用し、保護者へ直接提供されるように改善していきたい。

③働き方改革

職員の長時間勤務の解消を来年度も進めていく。本年度は、昨年と比べ全体平均から見ると時間外業務従事時間は減少している。しかし、特定の先生方や時期によっては、80時間以上の先生方が数名見られた。引き続き定時退勤日の設定や業務分担の改善、研修等による意識変容を図っていきたい。また、ICTを活用した業務時間削減についても取り組んでいく。